

環境経営レポート

2021年度版（2021年4月～2022年3月）

拝啓 ゴミさま

私たちに、便利で豊かな
生活を与えてくれて、
ありがとうございました。

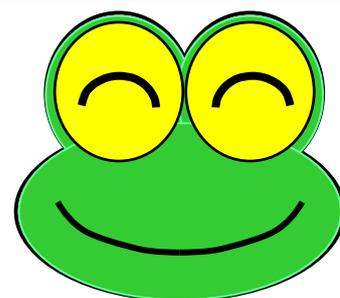
返信

私達は、まだまだ
役に立ちたいです！
ゴミより

株式会社タズミ


Tazumi

発行年月日:2022年5月11日



ごみが生きかえる!!

環境経営方針

環境理念

タズミは、「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で、限りある資源の循環活用であるリサイクル事業を通して、社会貢献して参ります。

行動指針

タズミの事業の環境効果を良く理解し、その事業の推進を図り、事業活動における環境負荷低減を推進します。

1. 廃棄物の収集運搬、中間処理をはじめとする、各種サービスの提供を通して、廃棄物の削減、再利用、再資源化、省エネルギー活動及び節水等を推進します。
2. 二酸化炭素の排出抑制効果の高い廃棄物の燃料化事業を推進します。
又、この事業の意義や効果について、従業員・事業者・市民への周知啓蒙活動に努めます。
3. 環境に関連する法令・規制を遵守し、継続的に汚染の予防に努めます。
4. SDG's が目指す持続可能な将来の為に、目標を立て計画をして、事業を通して実現していきます。
5. 外的要因、内的要因による課題を十分に検証し、事業のチャンスとなるように目標を立て計画し改善に取り組みます。
6. 環境管理活動の目的・目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に応じて、創意をもって環境管理活動を推進します。
7. 代表者による取組状況の評価と全体的な見直しの実施により、活動状況を確認し、改善及び是正を行い、施策を推進するとともに、環境マネジメントシステムの維持、並びに継続的改善に努めます。
8. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上に努めると共に、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
9. 環境経営方針は、すべての従業員に周知するとともに、環境活動レポートやホームページを通じて、社外にも公開します。

2020年 4月 1日

神奈川県綾瀬市吉岡709

株式会社 タズミ

代表取締役 田墨幸一郎

目次	頁
1. 組織の概要	1 - 7
2. 処理・リサイクル実績	8
3. 環境経営目標	
3. 1 中期環境経営目標計画、2021年度活動実績	9
3. 2 中期環境経営活動目標（3か年）、2021年度目標と実績、 次年度以降の目標値	10
4. 環境活動計画	
4. 1 環境活動計画（2022年度取組表）	11
4. 2 2021年度各部門による活動実績	12
5. 環境測定の実施結果の記録	13
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14
7. 取組結果とその評価、及び次年度の取組内容	15
8. 「プラターンの森計画」実績報告	16
9. その他、活動実績資料	
9. 1 各部門 活動実績	17-20
9. 2 廃棄物処理委託先の施設見学	21
9. 3 外部環境活動の実施	22-23
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	24

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

- ・株式会社タズミ
- ・代表取締役 田墨 幸一郎
- ・法人設立年月日 1984（昭和59）年 8月 1日

2) 認証・登録範囲（事業所） (所在地)

- ・本社・吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡709
- ・早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川2647-35
- ・早川第2工場 神奈川県綾瀬市早川2647-32
- ・早川リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市早川2275-1
- ・プラターン海老名工場 神奈川県海老名市上郷4-2-8
- ・海老名第2工場 神奈川県海老名市上郷4丁目2710-14

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・責任者 常務取締役 田墨 啓治
- ・担当者 管理課 伊延敏和、永瀬優一
- ・連絡先 電話 0467-77-1847 FAX 0467-77-1936

4) 認証・登録対象活動

- ・可燃性廃棄物を原料とする再生固形燃料の製造及び販売
- ・産業廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再資源化处理)
- ・一般廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再生固形燃料化)
- ・資源リサイクル業（古紙・鉄くず・非鉄・アルミ・プラスチック・ガラス）

5) 事業の規模

- ・資本金 2,000万円
- ・事業規模を 表1 に示す

表1 事業規模

活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度
		2019.4~2020.3	2020.4~2021.3	2021.4~2022.3
売上高	百万円	1,236	1,203	1,288
従業員	人	64	64	60
延べ床面積	m ²	7,999	7,999	7,999
工場床面積	m ²	4,233	4,233	4,233
受入廃棄物保管量	m ²	2,562	2,562	2,562
処理後物保管量	m ²	1,745	1,745	1,745

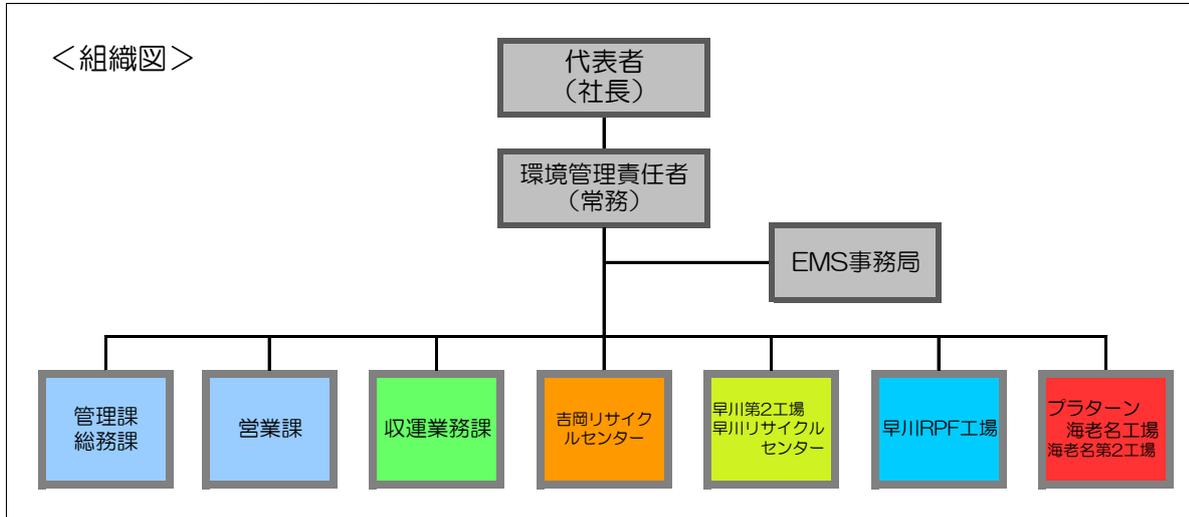
1. 組織の概要

6) 組織図

組織図を図1に示す。

図1 環境管理実施体制

2022年3月31日現在



環境経営システムに関する責任・権限は表2に示す。

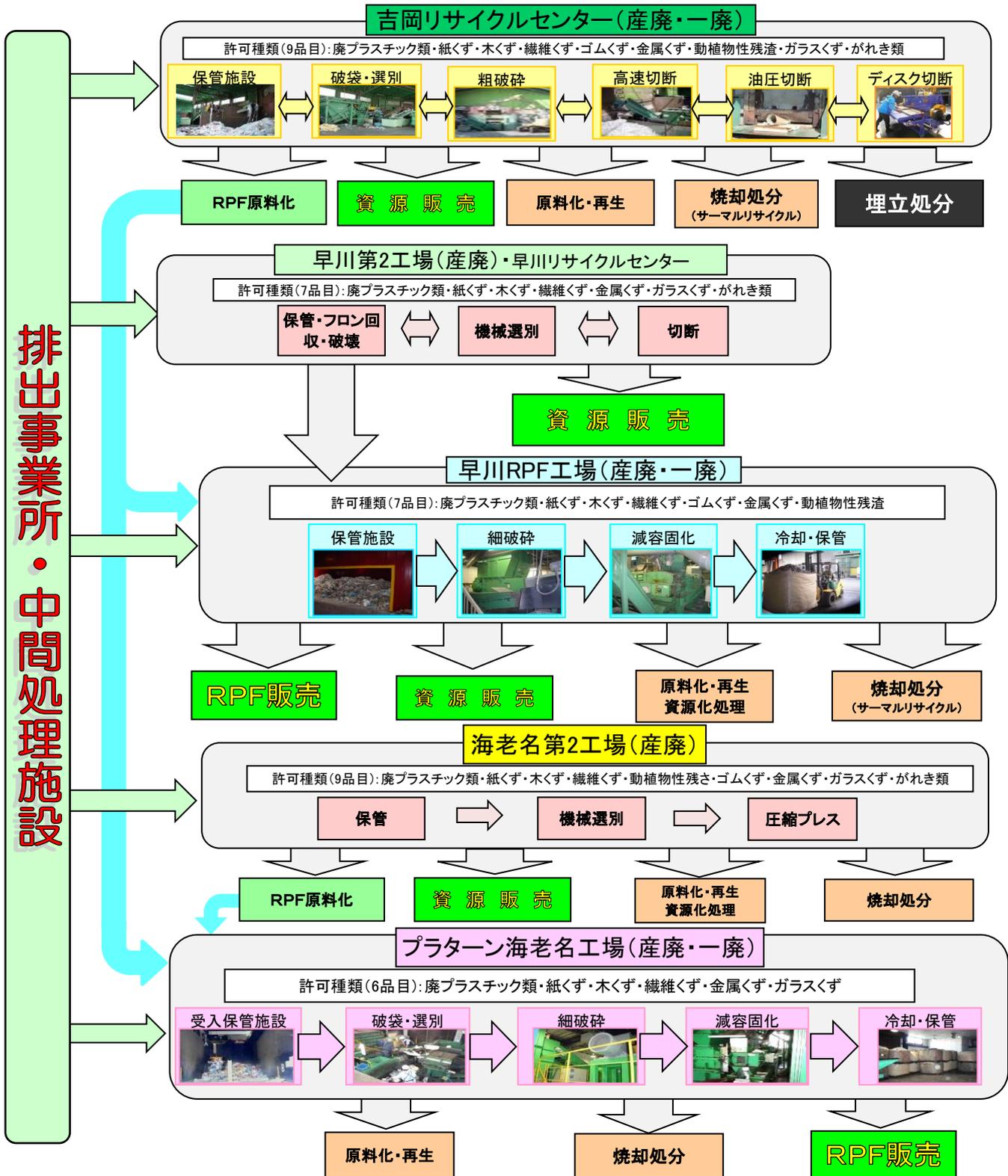
表2 環境経営システムに関する責任・権限

環境経営システムに関する責任・権限	
代表者 (社長)	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の策定 3. 環境経営システム実施及び官吏に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的な見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者 (常務)	1. 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置 2. 社長に対し、環境経営システムの実績報告 3. 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施の責任者 4. 外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口
EMS事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EMS推進事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境活動レポートの作成
各部門長	1. 環境活動の計画・実施の部門責任者 2. 改善活動の推進
一般従業員	1. 環境活動計画に基づいた環境活動及び業務改善活動の推進

1. 組織の概要

8) 処理フローを図2に示す。

図2 処理フロー図（社内処理相関図）



1. 組織の概要

9) 種類別処理フローを図3に示す。

排出事業者から処理を受託した様々な廃棄物は、お客様の要望を踏まえ、再生資源化・燃料化を行っています。処理の出来ないものに関しては、環境負荷の少ない方法で外部委託処理を行なっています。

図3 種類別処理フロー図



1. 組織の概要

1.1) 廃棄物収集運搬車両の環境性能の状況

- ・低排出ガス規制適合については表8に、低燃費車導入については表9に示す。

表8 廃棄物収集運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

収集運搬車の排ガスレベル	台数（比率） R4年3月末時点		【参考】台数（比率） H24年3月時点	
	全保有台数	28台	(100%)	19台
①平成15年規制適合車	1台	(4%)	1台	(5%)
②平成17年規制適合車	1台	(4%)	4台	(21%)
③平成17年基準低排出ガス車50%低減 ☆☆☆	1台	(4%)	0台	(0%)
④平成17年基準低排出ガス車 ☆☆☆☆	0台	(0%)	0台	(0%)
⑤平成17年基準低排出ガス（PM10%低減）重量車 ☆	0台	(0%)	2台	(11%)
⑥平成17年基準低排出ガス（Nox及びPM10%低減）重量車 ★	0台	(0%)	1台	(5%)
⑦平成19年規制適合車	1台	(4%)	0台	(0%)
⑧平成22年（ポスト新長期）排出ガス車	4台	(14%)	0台	(0%)
⑨平成21年基準低排出ガス車10%低減☆☆☆	3台	(11%)	0台	(0%)
⑩平成22年基準低排出ガス車10%低減	9台	(32%)	0台	(0%)
⑪平成28年規制適合	8台	(29%)	0台	(0%)
低排出ガス車以外の車両	0台	(0%)	11台	(58%)

表9 廃棄物収集運搬車に係る低燃費車の導入状況

収集運搬車の燃費低減レベル		台数（比率） R4年3月末時点		【参考】台数（比率） H24年3月時点	
		全保有台数	28台	(100%)	19台
平成22年度燃費基準達成車	① —	0台	(0%)	1台	(5%)
	②5%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	③10%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	④15%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
	⑤25%低減レベル	0台	(0%)	0台	(0%)
平成27年度燃費基準達成車	⑥ —	18台	(64.3%)	2台	(11%)
	⑦ 5%低減レベル	7台	(25.0%)	0台	(0%)
	⑧10%低減レベル	2台	(7.1%)	0台	(0%)
低燃費基準達成車以外の車両		1台	(3.6%)	16台	(84%)

* 低燃費基準達成車以外の車両については導入してから15年以上メンテナンスを行いながら大事に使用しています。

* 21年度に新しい車両を導入し、入替する予定です。

2. 処理・リサイクル実績

受託廃棄物の処理量と資源リサイクル量を表10に示す。

表10 受託廃棄物の処理量 及び資源リサイクル量

(単位：t)

廃棄物の種類		処分方法	2019年度	2020年度	2021年度	
収集運搬量	一般廃棄物収集運搬量		1,990	1,565	1,757	
	産業廃棄物収集運搬量		7,806	6,682	7,122	
	収集運搬合計		9,796	8,247	8,879	
中間処理 処分量	一般廃棄物処分量	固形燃料化・選別	3,005	2,087	2,040	
	産業廃棄物処分量	機械選別・破碎 ・減容固化	16,135	14,176	14,773	
	処分量合計		19,140	16,263	16,813	
	再資源化	再生固形燃料出荷量	固形燃料化量	14,088	11,938	12,442
		古紙出荷量	機械選別/再資源化	4	4	6
		鉄・非鉄原料出荷量	機械選別/再資源化	1,130	979	1,198
		木チップ原料出荷量	機械選別/再資源化	87	31	0.4
		プラスチック出荷量	機械選別/再資源化	369	15	10
		再資源化合計		15,678	12,966	13,656
資源リサイクル量	古紙類（処理後再生分含む）		2,020	1,597	1,587	
	鉄原料（処理後再生分含む）		1,652	1,093	1,111	
	非鉄原料（処理後再生分含む）		751	856	832	
	ガラス原料（処理後再生分含む）		32	49	137	
	再生プラスチック原料（処理後再生分含む）		145	74	84	
コメント		2021年度は、コロナウィルス感染症拡大の伴って、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令とつづき廃棄物の発生量が少なくなる中で、収集運搬量、処分量ともに微増と健闘しました。資源リサイクル量についてもほぼ横這いで、非鉄原料（処理後再生分含む）は微減となりました。				

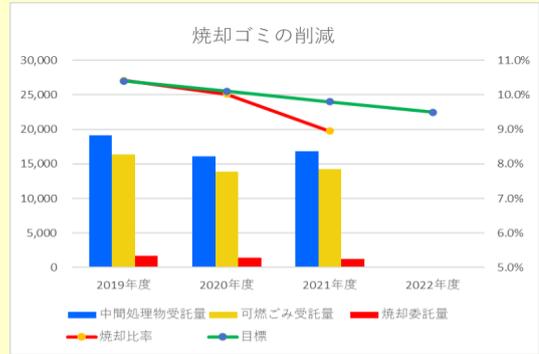
3. 環境経営目標

3.2 中期環境経営活動目標（3か年）、2021年度目標と実績、次年度以降の目標値

受託可燃廃棄物の焼却委託比率 ※目標0.9%削減

可燃混合物からのRPF原料化、サーマル焼却向け選別の徹底。
処理方法を活かしたRPF原料調達への取組みを強化します。

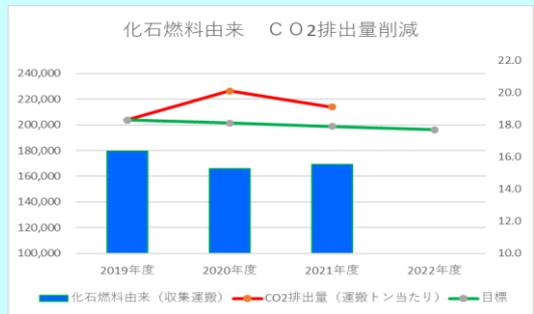
項目		年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	中間処理物受託量	t	19,138	16,041	16,787	
	可燃ごみ受託量	t	16,344	13,912	14,229	
	焼却委託量	t	1,703	1,394	1,273	
	焼却比率	%	10.4%	10.0%	8.9%	
	目標	%	10.4%	10.1%	9.8%	9.5%



化石燃料由来の二酸化炭素排出量（廃棄物運搬量1t当たり排出量） ※目標3%削減

燃料使用量を下げるべく、ルートの見直し、回収頻度の見直し、回収車両の見直し（新車導入を含む）等、業務改善を実行します。

項目		年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2	廃棄物収集運搬量	t	9,796	8,260	8,879	
	化石燃料由来（収集運搬）	kg-CO ₂	179,527	165,864	169,308	
	CO ₂ 排出量（運搬1t当たり）	kg-CO ₂ /t	18.3	20.1	19.1	
	目標	kg-CO ₂ /t	18.3	18.1	17.9	17.7



電力由来の二酸化炭素排出量（RPF生産1t当たり） ※目標3%削減

地球環境保全の為、可燃ごみの再生固形燃料（RPF）を推進し製造時のCO₂の排出量も最小化を目指します。

項目		年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
3	RPF生産量	t	14,412	12,406	12,819	
	電力由来	kg-CO ₂	1,144,772	982,410	950,605	
	CO ₂ 排出量（RPF1t当たり）	kg-CO ₂ /t	79.4	79.2	74.2	
	目標	kg-CO ₂ /t	79.4	78.6	77.8	77.0



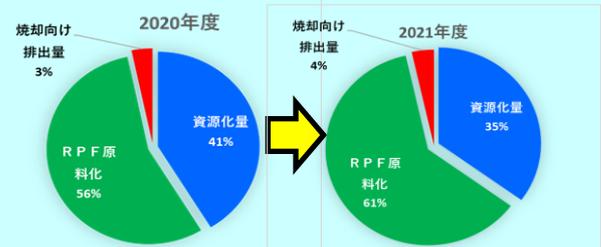
◇二酸化炭素排出量（化石燃料由来、電力由来）の総量実績推移：全社全部門

項目		年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
CO ₂ 排出総量		kg-CO ₂	1,831,008	1,464,579	1,425,762	

自社焼却向け廃棄物排出量 ※目標9%削減

事務所から出る自社ゴミは、分別を徹底し、再生資源化を原則とする。可燃ごみは、RPF化原料とし、生ごみなど処分の必要なものに限って焼却処分とする。

項目		年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
4	自社廃棄物総量	kg	1,441.0	1,529.5	1,383.1	
	資源化量	kg	592.5	631.6	484.5	
	RPF原料化	kg	771.5	847.2	850.2	
	焼却向け排出量	kg	77.0	50.7	48.4	
	目標	kg	77.0	75.0	72.4	70.0



3. 環境経営目標



3.1 中期環境経営目標計画、2021年度活動実績

2019年度を基準値として新たな中期環境経営目標計画は、環境負荷の少ない燃料化事業を推進することと、事業活動に伴う温暖化ガス排出抑制を行い、リサイクル事業を推進します。

項目	年度		基準値	2020年度	2021年度			2022年度
				実績	目標	実績	評価	目標
1 受託可燃廃棄物中の 焼却委託比率 ◇目標 0.9%削減	可燃ごみ受託量	t	16,344	13,912	-	14,229	○	-
	焼却委託量	t	1,703	1,394	-	1,273		-
	焼却比率	%	10.4	10.0	10.1	8.9		9.5
2 化石燃料由来の 二酸化炭素排出量 (廃棄物運搬量1t当たり 排出量) ◇目標 3%削減	化石燃料由来 (収集運搬)	kg-CO ₂	179,527	165,864	-	169,308	×	-
	収集運搬量 (一廃・産廃)	t	9,796	8,260	-	8,879		-
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	18.3	20.1	18.1	19.1		17.7
3 電力由来の 二酸化炭素排出量 (RPF生産1t当たり) ◇目標 3%削減 注1) (排出係数を0.442変更)	電力由来	kg-CO ₂	1,144,772	982,410	-	950,605	○	-
	再生固形燃料 プラターン生産量	t	14,412	12,406	-	12,819		-
	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	79.4	79.2	78.6	74.2		77.0
4 自社排出廃棄物の 焼却処分量 ◇目標 9%削減	自社廃棄物総量	kg	1,441	1,530	-	1,383	○	-
	自社焼却向け 排出量	kg	77.0	50.7	75.0	48.4		70

以下の4項目は、環境マネジメントシステムの要求事項に目標設定は行わない。ただし、環境影響度合いの高い重要項目であるため、監視項目として変化を確認し、必要があれば都度対策を実施するものとする。

監視3項目	2020年度から2022年度まで	2021年度実績
1 事務用品購入費のグリーン購入（環境負荷の少ない）を促進する	事務用品は、購買ルールを順守し、購入サイトwebページ上からの購入励行。月次で購入比率を確認します。	今年度もルール通りに運用でき、グリーン購入化率も53.4%の実績となった。
2 再生固形燃料プラターン生産量：15,000 t/年を目指す。	安定した生産体制を維持し、燃料化への取り組みを全社取り組みとして計画する。処理体制の整備、具体的な増量案件の積上げ等、諸策を講じていく。エコアクション21の年度計画とはしない。	コロナウィルス感染症の広まりが繰り返す中で、原料となる可燃ごみの排出量は、微増となりました。処理困難物である量については、情報拡散に努め、処理量を維持しました。プラターンは、12,819 t生産することが出来ました。
3 水：上水使用量を監視する	各部門とも前年度実績を踏まえ、定期的に使用量を確認し、異常が認められた場合は原因を突き止め、逐次対策を講じる	製品製造時に使用する中で、日頃から監視状況を怠ることなく、メンテナンス清掃時の使用量にも配慮し削減につなげました。
4 化学物質：排出量を把握する	購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	屋外床面滑り止め塗料など購入しました。

4. 環境活動計画

4.1 環境活動計画（2022年度取組表）を表11に示す。

表11 環境活動計画

活動項目	管理及び実施項目	推進部門 ^{注1)}							評価/確認方法
		営業・管理課	運搬業務課	吉岡Rセンター	早川第2工場	早川RPF工場	海老名第2工場	PT海老名工場 総務課	
受託可燃廃棄物中の焼却委託比率の低減	作業手順・段取りの見直しによる選別作業効率の改善			◎	◎	○	○		燃料化原料の知識を習得し、適切な作業方法を確立する。
	工場部門との連携による燃料化比率の向上	◎	○	◎	◎	◎	○		案件毎に工場側に選別品の検証を要請し、結果を確認し都度対策を取る。
化石燃料由来のCO ₂ 排出量比の低減	車両・重機類の日常・定期点検の実施	○	◎	◎	◎	○	○		点検結果に基づいた対処を迅速におこなう。
	エコドライブの推進と実績の監視	○	◎	◎	◎	○	○		無理な配車をせずに、ドラレコ等を活用し、エコドライブを励行する。
	車両・重機類の効率的な燃料使用の励行	○	○	○	○	○	○		効率的な作業計画を作成しエコ操作の励行に取り組む。
	高環境性能車両への更新	◎	◎	◎					エンジンフォークリフトからバッテリーフォークリフトに更新する。
電力由来のCO ₂ 排出量比の低減	設備・機械の日常・定期点検の実施			○	○	◎	◎		日々の生産効率を確認しメンテナンスを適切におこなう。
	デマンド監視と効率の良い作業の実践					◎	◎		処理物の状態等に合わせ効率作業を励行。結果は日/月次の作業効率・生産性で確認
中間処理後廃棄物の排出量の低減	廃棄物中の資源物を効率良く抜き取り、廃棄物排出量低減	○	○	○	○	○	○	◎	排出事業者への分別提案を実行し、又、中間処理技術の向上に努める。
DX導入の検討と推進	電子マニフェスト推進(紙マニフェスト購入件数の削減・事務作業軽減)	◎	◎					◎	紙マニフェストの年間購入量を確認
	運行管理システム導入による業務改善	◎	◎					◎	データ活用による回収効率、伝票レス化による作業効率の改善に取り組む。

注1) ◎ 主管部門、○ 活動として取り組む部門

自社廃棄物排出量については、分別排出の徹底が行われ、資源化・燃料化の推進が通った。以降、監視項目とする。

4. 環境活動計画

4.2 2021年度各部門による活動実績

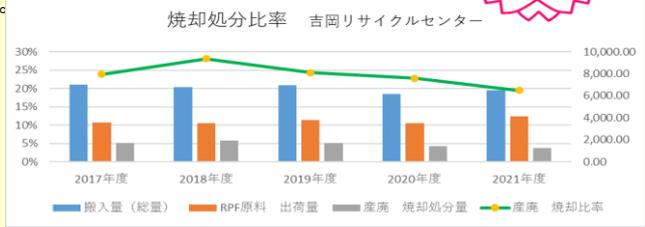
受託可燃廃棄物の焼却比率の削減

吉岡リサイクルセンター

年間を通して、選別ラインを通す混合物の種類を増やしました。従業員の分別スキルが上がることで資源化比率が向上しました。



吉岡リサイクルセンター	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
搬入量(総量)	7,012.50	6,812.69	6,932.91	6,176.74	6,491.96
RPF原料 出荷量	3,566.74	3,484.96	3,818.44	3,489.44	4,138.65
産廃 焼却委託量	1,675.51	1,913.29	1,684.30	1,407.78	1,266.15
産廃焼却委託比率	24%	28%	24%	23%	20%



早川第2工場、早川工場

早川第2工場では、引き続き早川工場の連携を強化するべく産廃物の回収・受入を積極的に実行しました。又、混合物や解体物について、燃料化できる種類について学習が進み、燃料化原料の質も向上しました。再生資源物、主に金属類の受入については、より良い売先を確保し、積極的な現地回収によって量を確保しました。

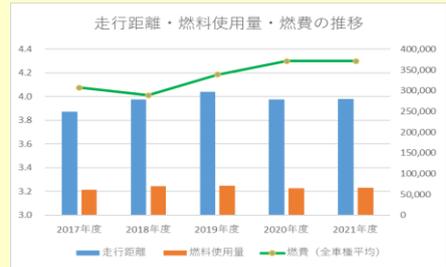
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
RPF原料	44,930	53,440	66,320	163,860	131,100
再生資源販売量	1,509,627	1,475,919	1,849,701	1,520,275	1,620,633



収運業務課 化石燃料由来の二酸化炭素排出量(廃棄物運搬量1t当たり) ※目標3%削減

コロナウィルス感染が拡大する中、収集運搬量は、前年比で7%増と善戦しました。回収効率は、ゴミの発生量の影響で大きく左右されますが回収ルート調整をいたしました。今後は、紙伝票を電子化する為に導入したタブレット端末の情報などから、一層の効率化を目指します。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
走行距離	249,254	279,279	297,091	278,678	279,780
燃料使用量	61,164	69,635	70,983	64,330	65,623
燃費(全車種平均)	4.1	4.0	4.2	4.3	4.3



電力由来の二酸化炭素排出量(RPF1t生産当たり) ※目標3%削減

早川工場 9月に新設成型機のモーター交換を行い出力が上がったため、電気使用量は増加しました。現在、成型機性能アップの為、構成する部品形状などの見直しをメーカーと共におこなっています。
海老名工場 昨年1月に成型機の入替えを行った結果、成型時の負荷が低減され電力使用量が減りました。今後、オペレータの技術向上を図り、より一層のCO₂発生量低減を目指します。



早川工場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
電力量使用量	61,589	48,459	57,574	52,221	49,973	56,546	62,146	60,679	76,480	59,022	58,447	69,904
CO ₂ 排出量(t当たり)	70.3	72.4	67.7	67.9	68.8	70.9	74.2	72.4	75.9	77.8	77.5	75.9
海老名工場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
電力量使用量	112,042	95,313	111,987	104,803	93,583	106,917	117,692	109,276	121,960	101,264	98,214	115,988
CO ₂ 排出量(t当たり)	62.3	66.0	64.8	72.1	68.4	66.1	67.0	67.2	70.2	69.4	67.9	66.0

営業・管理・総務課

- ・ワオトーク(WowTalk)を導入し、災害発生時の緊急連絡体制を一新。情報漏洩を心配することなく社内の情報共有が出来、業務コミュニケーションもスムーズかつスピーディに行えるようになった。
- ・各事業所から出る廃棄物は、分別を徹底し、焼却向けから燃料化をさらに進めました。P10の通りです。
- ・伝票レス化のため、販売管理システムと連携したタブレット導入(運行管理システムを3月から運用開始)





5. 環境測定の実施結果の記録

- 騒音・振動測定：吉岡リサイクルセンター・早川RPF工場・プラターン海老名工場 毎年/1回実施
- 臭気測定：早川RPF工場・プラターン海老名工場 毎年/1回実施



2021年度 環境測定記録・結果

吉岡リサイクルセンター 騒音・振動			破砕施設		高速切断施設		油圧切断施設	
			前期	今期	前期	今期	前期	今期
2021/4/27実施	騒音規制値	55dB	47	50	49	54	47	48
	振動規制値	65dB	30	30	45	45	50	52

早川RPF工場 騒音・振動			成形施設		破砕施設A		破砕施設B	
			前期	今期	前期	今期	前期	今期
2021/5/10実施	騒音規制値	75dB	72	72	69	67	63	67
	振動規制値	70dB	61	70	64	69	64	63

早川RPF工場 臭気			脱臭排气施設		溜水式集塵施設	
			前期	今期	前期	今期
2021/5/7実施	臭気規制値	35以下	24	32	22	24

早川RPF工場 臭気（敷地境界）			敷地境界	
			前期	今期
2021/5/7実施	敷地境界規制値	15以下	10未満	10未満



今年度も測定結果
基準値全てクリアしました！

※海老名工場の測定は、前期に成型機入替工事があった為、1月の測定となっております。

プラターン海老名工場 騒音・振動			選別施設		破砕施設		成形施設	
			前期	今期	前期	今期	前期	今期
2021/1/12実施	騒音規制値	75dB	66	68	64	60	61	58
	振動規制値	70dB	53	39	52	63	67	59

プラターン海老名工場 臭気			排出口①		排出口②		排出口③		排出口④	
			前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
2021/1/12実施	臭気規制値	30以下	12未満	16	12未満	12	12未満	24	12未満	12未満

プラターン海老名工場 臭気（敷地境界）			敷地境界	
			前期	今期
2021/1/12 実施	敷地境界規制値	15以下	10未満	10未満



6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規については内容を確認し、以下の項目で変更点がありました。

○環境関連法規のチェック表

法令等名称	環境関連法規	主な要求内容	前回確認からの変更点	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	許可の更新・変更	5年毎の許可更新（優良は7年）	神奈川県産業廃棄物処分量において、弊社早川工場の成型機の入替を行いました。また来期になります埼玉県産業廃棄物収集運搬業の許可期限が来期5月で満了の為、3月末に許可更新申請と優良認定申請を行いました。（現在審査中）	
騒音規制法・振動規制法・悪臭規制法・神奈川県生活環境保全条例	騒音・振動・悪臭の規制基準の順守	指定地域内によりその場所ごとの規制基準値を超えないようにする。	騒音・振動・臭気についての基準はすべてクリアしました。近隣住民などから苦情もなく、来期以降も年に一度の検査を行っていきます。	
労働安全衛生法 労働安全衛生法施行令 特定化学物質予防規則（特化則）	「溶接ヒューム」について特定化学物質として位置づけ	換気の実施、溶接ヒューム測定と結果に基づいた呼吸用保護具着用	溶接ヒュームを測定し、使用保護具の適切性を確認、特定化学物質室及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習の受講・選任	
フロン排出抑制法（旧フロン類回収破壊法）	引取証明書の写しによりフロン類の回収が確認されない第一種特定製品の引取り等は禁止	回収時引き取り証明書の写しを交付しなければならない	回収時・搬入時引き取り証明書がない場合、回収・処理は行わないように従業員に周知。社内でリーフレットも作成しました。	

○その他の環境法令チェック

・グリーン購入法	✓	・綾瀬市火災防止条例	✓
・家電リサイクル法	✓	・海老名市環境保全条例	✓
・下水道法	✓	・海老名市廃棄物の減量化、資源化、	✓
・道路運送車両法	✓	適正処理等に関する条例	
・消防法	✓	・海老名市火災防止条例	✓
・電気事業法	✓	・労働安全衛生法	✓

2022年3月31日 確認



法令違反・訴訟等の有無については、問題ありません。

○環境法令以外の法改正・その対策

道路交通法 2022年4月～改正	安全運転管理者の業務	運転前、運転後に酒気帯び運転の確認の有無を目視などで確認	来期から始まるが事前に該当する本社でアルコール検査器を用意し、測定結果をクラウド上で保管できるようにした。（検査器での検査は22年10月より義務化）	
プラスチック資源循環促進法 2022年4月施行	廃プラスチック再資源化の促進	再資源化並びに再資源化等の推進	新法の内容を正しく理解し、排出事業者様に提案していく	重要課題

○外部からの環境に対する苦情や要望

（地域住民・顧客・自治体・消費者や社会の要望等も含む）→今回も特に苦情・要望についてはありませんでした。

7. 取組結果とその評価、及び次年度の取組内容

環境活動計画の取組結果とその評価

取組結果を表12に示す。



- ：取組み、目標達成
- △：取組んだが目標未達成
- ×：取組めなかった

表12 環境活動計画の取組結果

項目	取組結果の評価	
受託可燃廃棄物中の焼却委託比率の低減	○	全ての事業所において、受託する可燃系廃棄物の性状や成分などの確認・見直しを行い、改めて燃料化しうる廃棄物の割合を増やす努力を実行しました。コロナウィルス感染拡大が止まらず、処理量は伸び悩みましたが吉岡センターでは、機械選別施設の活用頻度を増やし、分別技術の水準を上げることで焼却委託比率が下がりました。又、昨年度に引き続き処理困難物である廃棄物を積極的に受入し燃料化しました。
化石燃料由来のCO ₂ 排出量の削減	×	廃棄物収集運搬量は、コロナウィルス感染が拡大する中でも前年比で7%増と善戦し、廃棄物1ト回収に対してCO ₂ 発生量は、目標17.9kgに対して19.1kgでしたが、前年比では5%削減となりました。回収効率は、ゴミの発生量の影響大ですが、タブレット端末導入もなされた中でIoT化推進と共に改善を進めていきます。
電力由来のCO ₂ 排出量の削減	○	電力由来のCO ₂ 発生量は、生産量が4%増え生産性も改善した結果、製品生産1ト当たりのCO ₂ 排出量を6%削減することが出来ました。しかしながら、早川工場は、製品成型機の改良でモーターが大きくなった影響があり、今後対策を講じていきます。海老名工場は、成型機の仕様変更で電力使用量は減りましたが今後、生産オペレータの技術水準を上げて生産性向上を図るとともにCO ₂ 発生量抑制に努めます。
自社廃棄物排出量の低減	○	社内から出る可燃ごみは、人員の増加に合わせて年々増加の傾向にあるが、全従業員のごみの分別の徹底により、RPF化原料が増加しており、焼却ごみは、総量も比率も低下している。
グリーン購入の推進	○	グリーン購入品に限らず環境負荷の少ないものを率先して購入している。3月には、燃料電池車に引き続き電気自動車を導入し、温暖化ガス削減に貢献する企業としてPRの材料としたい。

前回 代表者による全体評価と見直し、指摘事項に対する取組み結果

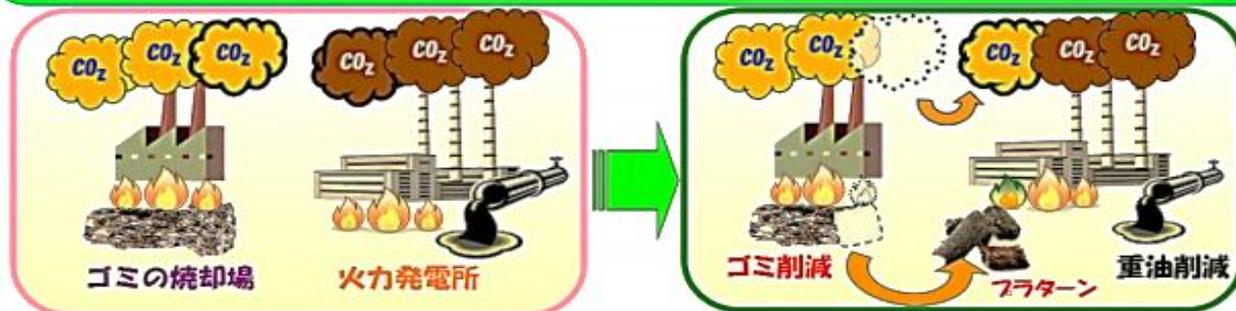
a)	焼却処分費が高騰する状況の中で、化石燃料の使用量削減とCO ₂ 発生量の削減効果が多大な「燃料化事業」の強みを再確認して、その情報発信やPR方法も検討し、また現状の作業方法等の内容や手順も検証改善して、燃料化の増大を図って下さい。	コロナウィルス感染症の影響が拡大する中、原料となる可燃ごみの処理量は微増となったが、各部門共に改めて入荷物の特性を見直し、作業方法を改善することで、燃料化できる廃棄物を増やすことが出来た。「燃料化事業」の優位性PRについては、LED看板のコンテンツ見直しなどをおこないました。今後、営業、作業員共に、排出事業者および同業者に対して情報発信を強化致します。
b)	再生資源事業は相場による売買が主体で、輸出が困難となり資源相場が下落している状況下です。資源化の処分手数料を請求できる廃棄物処分業の許可を活かして、売買が困難となっている下級グレードの資源化物の扱いも増やすことで、環境面でも経営面でも大きな成果が上がる事を期待します。	再生資源事業は、コロナ下で相場が高騰し、下級グレード品の扱いも増やすことが出来たことで、環境面でも経営面においても大きな成果・利益をもたらすことが出来た。今後も、「ゴミが生きかえる」の基本理念のもと、何事にも手間を惜しまず、タズミらしく世の中に貢献致します。
c)	コロナ感染リスク対策で事業活動に支障が出ている状況をチャンスと捉え、普段では困難だった社員教育・人財育成と、作業手順書やマニュアルの改正にも継続的に取り組んで下さい。	マネージャー会議において、全社・各部門に課題が提供され、部門長（マネージャー）が自部門の課題を各メンバーの課題として明示することで、より具体的な取組みが実行された。課題は、環境教育の他、法的遵守、又、作業内容及び毎月の課題がより具体的で成果の見える目標を設定し、評価が適切であった部門は、確実に人材の育成につなげることが出来た。

8. 「プラターンの森計画」実績報告
 タズミが推進する再生固形燃料（RPF）化について

※「プラターン」は、タズミ製固形燃料の商品名です

プラターンの森計画

可燃性廃棄物燃料化事業の環境負荷低減効果の表現



排出抑制された量のCO₂を
 吸収する杉林の面積で表現

節約した重油由来分のCO₂排出を抑制

- >プラターン1トで重油700ℓ節約
- >重油700ℓから発生するCO₂は約2ト
- >プラターン1トで約2トのCO₂排出抑制効果がある。

**35年生杉
 約200本**



2,100m²



直接効果

【焼却ごみのうち1トンをプラターン(再生固形燃料)に加工すると】
 その熱量は重油700ℓ分に相当します。上図の減った煙1つは、重油700ℓの燃焼で発生する約2トンのCO₂です。一方、1年間に2トンのCO₂を吸収固定する杉林の面積は約2,100㎡で、その杉の本数は約200本になります。

つまり、焼却ごみから1トンのプラターンを製造・利用することは、2,100㎡の杉林（200本の杉の木）を1年間保全したのと同じ効果がある事になります。この仮想の森を維持拡大することが「プラターンの森計画」であり、当社の燃料化事業の環境効果です。

2021年度の《プラターンの森》は

- ★プラターンの出荷実績：12,442トン（重油換算8697kℓ）^⑨
- ★排出抑制されたCO₂二酸化炭素は、24,772トン-CO₂
- ★プラターンの森の広さは、26km²、杉の本数では約260万本でした

⑨ プラターンの森では、プラターン出荷(販売)実績数量で計算していますが、環境活動では生産数量を使用しているため、森の面積やCO₂排出抑制量等で、表現数値に違いが出ます。

9. その他、活動実績資料

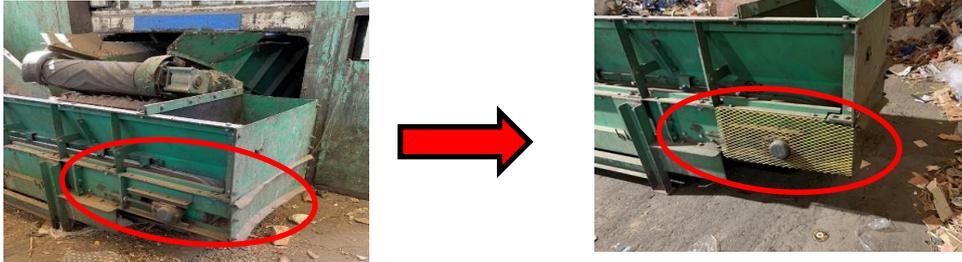
9.1 各部門 活動実績

吉岡リサイクルセンター

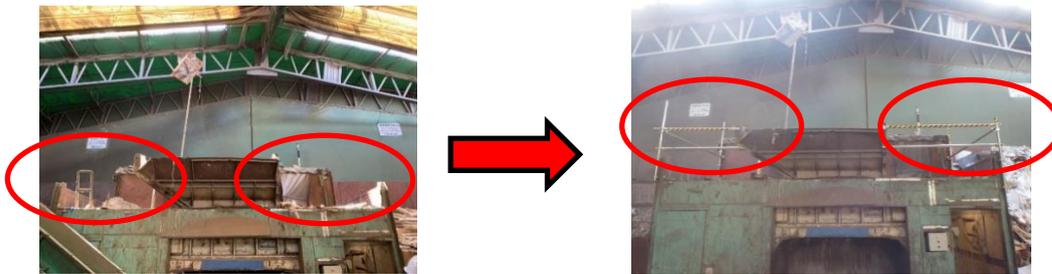
●構内安全パトロール（2021年9月）

他部署メンバーにも協力を依頼し、視点を変えて安全パトロールを実施しました。
破砕機周辺部分を重点的に確認した結果、コンベアと破砕機本体に危険箇所がありました。

コンベア駆動部 保護カバーの設置



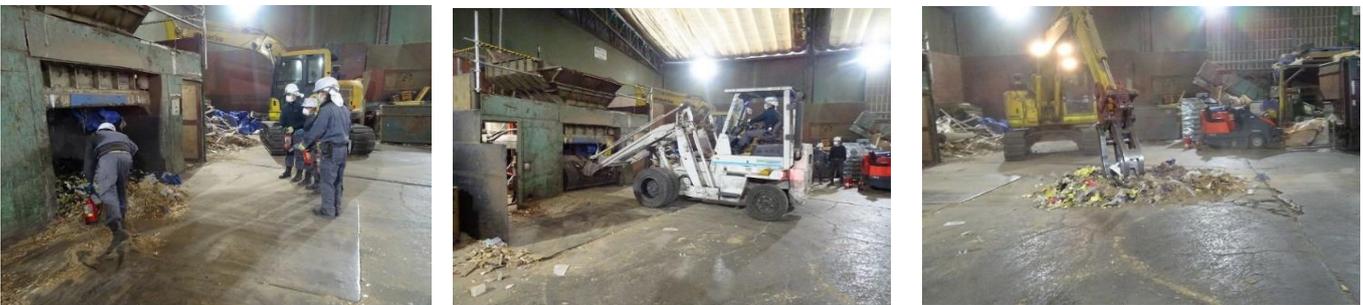
破砕機2階部分 手すりの設置



今回の事例に基づき、事業所内各所の安全パトロールを実行し、危険箇所については改善を図り、常に安全に作業が行えるよう活動を継続致します。

●初期消火訓練 破砕機からの出火を想定した訓練（2022/3月）

新入社員の入社後、メンバーの配置変更を行ったため、火災が起きた際の行動がとれるか訓練しました。
今回予告なしで行い、その際に適切な行動が出来るか訓練しました。



事務所・上司への報告がなかったり、前回用意した貯水タンクや焼砂の用意がないなど、課題は残ったが、消火器の持ち出しはスムーズに対応ができていました。
今後は指示役を変更して何度か訓練を続け、非常時に対応できるように教育していきます。

9. その他、活動実績資料

9.1 各部門 活動実績

プラタン海老名工場

●成型機内 逆転排出物 防火対策 (2021/12月)

生産終了時や機械を停止する際、成型機内には高温で練られた廃棄物が残っているためオペレーターは機械の逆転をかけ、排出させるが、その危険性を工場メンバー全員に教育した。



成型機下から中にたまっている原料が排出されます。

2021年12月22日	成型機内 逆転排出物防火対策OJT	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<ul style="list-style-type: none"> 同業者の火災事例で多いのが排出原料からの出火です。 定められた手順と理由を定期的にOJTで確認することでリスクの回避と、意識の向上に繋がると思いました。 他工程や、パートさんたちも知らないことがあったようなので、他の箇所でも同様にOJTを行い、部署内のリスク対策を講じます。 		

2021年12月 日	成型機内 逆転排出物防火対策OJT	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
<p>水を混ぜてバラした後も、大きな塊がありました。海老名工場でもボヤになった事があるようなので私も為、バラした燃料がある。たら、火が出てないか気を付けて見るようにします。</p>		

●初期消火訓練 (2022/3月)

通常、東日本震災を忘れないために地震時緊急避難訓練を行う予定でしたが、新メンバーの増員と3月初旬、工場に隣接する河川敷で大規模火災があり、急遽初期消火訓練を行った。

火災発見から鎮火まで5分3秒でした。炎印シートを見て、初めて火災条件を知るため、擬似的に火災の状況判断を体験できるものになりました。有事の際は状況判断の連続となり、指示・連携が重要になります。また、工場火災の場合には、**火元以外の延焼確認**も重要であり、その発見が遅れることで被害は拡大します。今回の訓練では同時発生を想定し、訓練内容が不明確な中、鎮火まで良い動きでありました。

火元消火



延焼の確認



2022年3月17日	火元消火訓練	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できず、疑問点など)を記入してください。		
<p>自分のいる場所、選別、直排にいた場合どこから消火器を持っていくのかがわかりました。</p> <p>消火のロスと必要なのかと迷った。</p> <p>選別のところにある消火器は、カギで取りずらいので、置く場所を訓練のために、自前にとりあえずかぎを外すことになりました。いい感じか?!</p>		

2022年3月17日	初期消火訓練	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できず、疑問点など)を記入してください。		
<p>火元鎮火後、上流、下流の火の確認が、とても重要だと感じました。</p> <p>また今回の訓練で、長いホースは、人とは伸ばしづらく、取り回し次第では、長さが余裕がなくなる事分かりました。</p> <p>今後、実際に消火器を使用した訓練も経験したいと思いました。</p>		

9. その他、活動実績資料

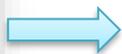
9.1 各部門 活動実績

早川RPF工場

●工場内 安全パトロール・5S整理 (2021/6月)

普段作業している工場内をパトロールし、気になった箇所の整理・整頓を行い、事故防止に努めました。緊急時の通路確保、道具の出し入れなどが改善され、労災ゼロ実現へ一歩近づきました。

①備品倉庫



②廃棄物保管 ピット裏



③2Fフロア



④トイレ前 資源物保管



●フォークリフト ワーニングライトビームの設置 (2021/12月)

構内狭い場所での作業が多く、人が巻き込まれないように改善対策としてフォークリフトの作業範囲を警告するワーニングライトビームを2台設置しました。



作業範囲内にライトが出て、作業員に注意を促します！



●その他、部門内で地震避難訓練を実施し労災ゼロに取り組んでいます。

来期も訓練などの計画を立て、定期的に継続実施していきます。

9. その他、活動実績資料

9.1 各部門 活動実績

早川第二工場

● 低電圧電気取扱業務特別教育

従来、感電対策は先輩からの現場教育のみで行っていたが、今回は外部講習受講により必要な知識を身に着けました。低電圧でも感電すると命の危険があるため、安全作業を徹底し労災ゼロを目指していきます。



web講習で学科受講



実務内容の説明は、弊社の委託する電気管理技術者から直接説明を受け、より確かな事故防止対策となりました。

2021/11/	低圧電気取扱作業者 学科 受講記録	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
電気での事故は死に直結し大きく関与するもの今回学んだ事の理解を深め特に安全意識をより一層高めるためこの機会を捉えてしっかりと学習していく。		

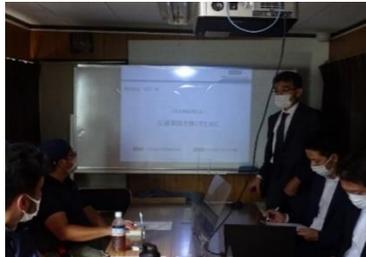
2021/11/	低圧電気取扱作業者 実技 受講記録	氏名: [REDACTED]
教育を受けての感想(理解できたこと、実践すること、そのほか要望など)を記入してください。		
・小孩さんに誤触をして頂く事で、テキスト内容の所ではなく、海老名工場で行う業務に於ける講習となり、良かったです。 ・特、低圧と高圧それぞれの危険性や、メンテナンス業務で必要となる資格なども、改めて聞く事ができました。 ・テキスト内容に於て、実技講習も行ってもらう、現物を体得した。道具、保護具、機器の取り扱い等も学ぶ事ができた。感電事故事例の説明や、万が一時の対応(ブレーカで遮断)も改めて充電部から触れられる)も聞けました。		

設備メンテナンスで電気設備に係る作業を行う早川RPF工場、海老名工場へ水平展開し、安全特別教育として実施しました。

収集運搬業務課

● 安全運転講習会

令和3年度から運転中の物損事故が多数起きていたため、三井住友海上の講師にお願いし「安全」とは何が交通事故を無くすにはどうしたらよいか、運転中にはどんなリスクがあるのかを学ぶ機会を設けました。



講習に先立ちタズミの事故データを事前分析してもらい、原因としてヒューマンエラーが多いことが判明しました。講義では、交通事故を起こすと直接損失(目に見える損失)と間接損失(二次的な金銭的損害)の2つの損失があり、間接損失は直接損失の約4倍ほどあるとわかりました。又、ヒューマンエラー防止には「平常心」を維持することが大切であると、改めて事故防止への意識づけができました。

2021/7/10	交通事故を無くすために	氏名: [REDACTED]
動画を見て、わかったこと、感じたこと、改善項目などを記入してください。		
・運転を行う事で、さまざまな責任があり、普段は考えないような内容もあって、良かったです。日々、安全運転を心がけるつもりで、改めて、考える時間が増えて勉強になりました。 ・危険予測動画では、実際の映像を元に行っていたが、こういった、動きに促されて、危険は、早急な対応により、自身の運転の判断に生かしていこうと思えます。		

2021/7/10	交通事故を無くすために	氏名: [REDACTED]
動画を見て、わかったこと、感じたこと、改善項目などを記入してください。		
安全運搬の重要性について、講習を受けた再確認の事が出来た。 安全運搬と別動線も十分に理解し、安全運搬と心掛けたと思います。 又、周囲の状況を見据えて、ヒューマンエラーを無くしていきたいです。 事故は、被害者、加害者及び会社、会社に対しては、再発防止の事をお願いしたいです。		

- 事故防止には、配車の適正化や常日頃から事前準備を徹底するなど「平常心」を保つ努力も欠かせません。
- 今回の教育とは別に、事故経験が複数回のドライバーに対し、自動車教習所での再教育を実施しました。加えて、社内で指導する教育担当者にも教習所に通ってもらい、今後の社内教育水準を上げるための施策としました。

9. その他、活動実績資料

9.2 廃棄物処理委託先の施設見学

タズミでは毎年、廃棄物の二次処理委託先への施設見学を行っています。今期もコロナ禍の影響がありましたが、処理委託先4施設のご協力を頂き、現地確認を行うことが出来ました。引き続き処理委託をお願い申し上げます。



神鋼産業株式会社（神奈川県伊勢原市）

●弊社の中間処理後のゴム屑（廃プラ類）の再生処理委託先です



許可看板



トラックスケール



選別機械



大型タイヤからはワイヤーが取れる



処理後のゴムチップ

※搬入された廃タイヤ等をゴムチップに加工します

※加工されたゴムチップは主に製紙会社の自家発電用ボイラーの燃料として利用されています。

新井総合施設株式会社：管理型処分場（千葉県君津市）

●弊社で中間処理をした際に再利用できないがれき類を管理型埋立処分の委託をお願いしております。

※弊社では県内芦名処分場と併用して処分を委託してます。

関東では最大級の埋立容量があり第Ⅲ埋立地も本年11月に開設予定今後20年間は埋立処分が可能。

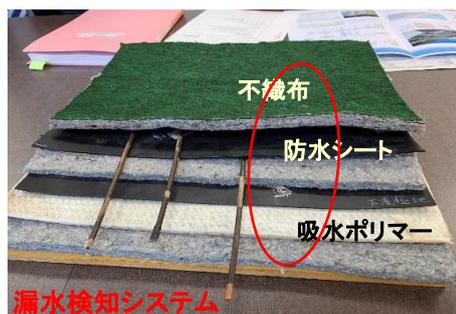


許可看板

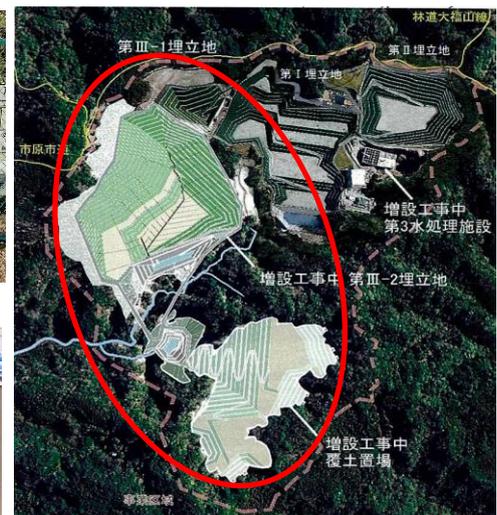
※埋立する敷地には右の写真のように2重に防水シート掛けを行い、漏れないよう管理されていました。

漏水検知システムを配置し、漏水があった際には、吸水ポリマーシートが膨張し自己修復機能で漏水を防止します。

又、エリア毎に検知管が配置され漏水箇所が特定されます。



漏水検知システム



処分場全景

9. その他、活動実績資料

9.3 環境活動の実施



- RE Action（再エネ100宣言）への取り組み
弊社早川第二工場で使用する電気をCO₂排出ゼロの再生可能エネルギーに転換いたしました。
今後、契約更新時に再エネの導入の検討を行い導入に向けて取り組んで参ります。
排出事業者様のスコープ3の位置づけとして温暖化対策につなげていきます。
- タブレット導入、回収効率コースを11月より導入（3月より本稼働）
廃棄物の収集運搬時、回収効率を上げるため、タブレットの導入を開始しました！
どの順番で回収すれば効率よくできるのか見えるかを行い、燃料費の削減を目指します！



タブレットでその時に何を回収したのか、通ったルートはどこか端末に表示され、入力後クラウドに保管されます。紙の出力がないため伝票レス化にもつながります。
データを収集していき、環境負荷低減を目指した回収を行い、配車の適正化を目指します。

● 営業車の入替



電気で走る自動車 リーフを営業車として導入しました！

- 回収車両以外にも営業車も環境に優しい電気自動車に切り替えました。
- ガソリンの消費がなく、オイル交換も不要、環境に優しい車両に今後切り替えていきます。
- 来期はフォークリフトをバッテリーフォークへ随時切り替えを行っていく予定です！

外部団体との環境活動

例年行っていた外部団体との活動は（不法投棄パトロール等）コロナ感染拡大防止のため今年度も中止となりました。次年度以降活動が再開されれば積極的に参加いたします。

9. その他、活動実績資料

9.4 外部環境活動の実施



❖ 環境関連寄付の実施 ❖



綾瀬市:古塩市長と



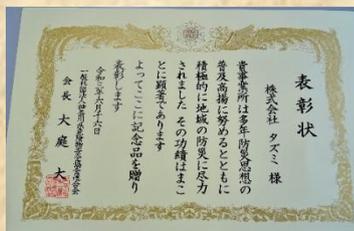
かながわトラスト基金



海老名市:内野市長と

タズミでは毎年、事業所のある自治体と県に環境保全・緑化保全に対して寄付を行っています。今年度も、かながわトラスト基金・綾瀬市・海老名市に寄付しました。

❖ 表彰 ❖ 神奈川県危険物安全協会連合会



積極的に地域の防災活動に
尽力した功績により表彰されました。

❖ 表彰 ❖ 神奈川県産業資源循環協会



令和2年度において
無災害を達成した功績により表彰されました。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

1) 全体評価

今回の評価結果及び指示内容等

①評価結果

- a) 受託可燃廃棄物の焼却委託比率の低減では、吉岡RCと早川第2工場が主体となって取組み、可燃廃棄物が増加した中でも焼却委託量を減らして「焼却委託比率」を8.9%に減らして目標を達成した。
- b) CO₂排出量削減では、化石燃料由来の「運搬1ト当の排出量削減」では僅かに目標に達しなかったが、電力由来の「RPF化1ト当の排出量」は目標値を大幅に下回り目標を達成した。
- c) 分別廃棄の自社排出廃棄物の焼却向け排出量の削減では、昼食トレー等の洗浄廃棄等で焼却から燃料化への移行が進み、目標値を大幅に削減できた。

監視項目のグリーン購入では、昨年度の水素自動車ミライの購入に続き、電気自動車のリーフを購入した。再生固形燃料「アーク」の生産量もコロナ禍による経済停滞の中前期比微増の12,819トの成果を挙げた。上下水道や化学物質の結果も異常な状況は無かった。

②指示内容

- a) 現在、焼却処分せざるを得ない廃棄物では、悪臭物があるが塩素濃度に問題ない物もある。その燃料化の方法として発酵により水分と臭いを除去するトンネルコンポスト製法がある。今後の課題として「現状対象となり得る廃棄物の排出源や排出量・性状」等の情報収集に取り組んで下さい。
- b) 「運搬1ト当のCO₂排出量削減」の目標で、1回の運搬量が少ない巡回回収が増加すれば目標に逆行し、4トコンテナ車の回収量が増加すれば目標推進となる。しかし少量排出の巡回回収の増大も重要な事業である。目標設定や指標の取り方等を検討して下さい。
- c) 自社排出廃棄物の焼却向け排出量の削減目標も重要な目標だが、発生量が少ないので今後の新たな目標を模索して下さい。（監視項目としていく）

令和4年4月28日

2) 見直し結果

- | | |
|----------------------------|-------|
| ① 環境方針の変更の必要性 | ・・・なし |
| ② 環境目標の変更の必要性 | ・・・なし |
| ③ 環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性 | ・・・なし |

このレポートに関するお問い合わせはこちら

電話：0467-77-1847 FAX：0467-77-1936 HP <http://www.tazumi.jp/>